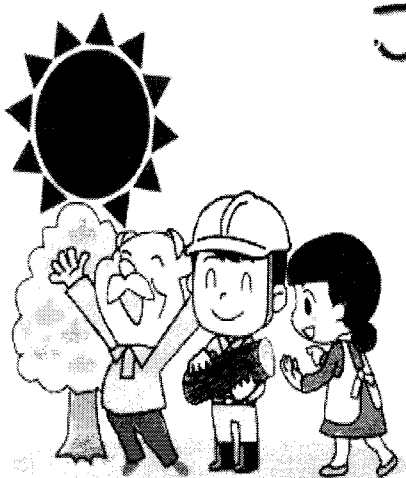


【NPO 法人地域資源ネットワークあいち 設立記念講演会】

ご伝授します！
人も企業もともにうるおう
地域づくりの方法

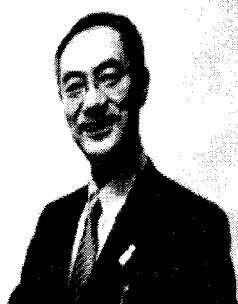
3月13日（日）14時～16時、ウインクあいち特別会議室 1303にて、NPO 法人地域資源ネットワークあいちの設立記念講演会が開催されたので、CANの取材のために参加しました。

NPO法人 地域資源ネットワークあいち 設立記念講演会



ご伝授します！
人も企業もともにうるおう
地域づくりの方法

地域に眠るお金と自然の恵みを活用して
仕事を創れば原発無しでも豊かになれる
地域密着型ファイナンスで中小企業を支え続け
て40年。金融の達人が熱く語ります。



よしから つよし

講師：吉原 毅 氏（城南信用金庫・相談役）

平成28年3月13日（日）14時～16時

（開場：13時30分）

ウインクあいち 特別会議室 1303

名古屋市守山区名駅4丁目4-38 電話：052(571)6131

講演の中身を要約すると、

- 1 城南信用金庫は日本で最も古い信用金庫です。信用金庫とは一般の市中銀行のように利潤を目的としない、人とのつながりを重視する中

小企業専門の金融協同組合のようなものです。類似の金融機関に信用組合がありますが、出資の方法が違います。

2 城南信用金庫は3.11震災と原発事故発生直後に、寄付金と地域からの義捐金を合わせて4.3億円送り、4月1日には「原発に頼らない安心できる社会へ」という脱原発宣言を発表。原発がなくても暮らせる省電力・省エネルギーのための設備投資に対し、金融支援を行うことにしました。同時に、保有していた東電株・社債をすべて売却するとともに、自ら23.5%（原発相当分）の省エネルギーを実現しました。

3 原発はコストが安いとされていますが、廃棄物処理は現在無い新技術の開発を前提としている上、事故があれば（絶対ないとは誰もいない）その被害は甚大で、コストが安いから再稼働するという今の方針はおかしいです。

4 原発再稼働の理由の一つにCO₂ = 地球温暖化対策があげられていますが、そもそも大気中にわずかしかかないCO₂による気温上昇の寄与度は低いです。大気中の水蒸気の方がよっぽど寄与度は高いと多くの専門家が指摘しています。しかし、CO₂対策はビジネスになります。水蒸気ではないため敢えて問題にされていません。仮にCO₂増加による温暖化が事実としてもマイナスばかりではなく、植物生産向上などプラスもあります。とくに将来のエネルギー源として有望視されているユーグレナ（ミドリムシ）にとってはCO₂が多い方が増殖効率は高いので循環型エネルギー

獲得の面からは良いことです。

5 日本は再生エネルギー源や高効率の石炭利用技術を持っているのですから、テロリストも含めて破壊的被害リスクを内包する危険な原発再稼働を止めるべきです。

参加者との意見交換の概要は、

（会場）

本日の話に賛同しますが、市民は具体的に何をやればいいのでしょうか？

（吉原氏）

良いプロセスを経て作られた良い製品を選んで購入する、環境改善に努力している会社の製品でないと買わないというような運動をするのが有効です。かつてのラルフネーダーの例があります。

（会場）

信用金庫を含めて金融会社は担保がないと融資してくれません。起業2年目で実績・担保資産が乏しいです。どうすれば良いのでしょうか？

（吉原氏）

確かに現実には貸し倒れリスク回避のために担保主義になっており、信用金庫の理念から外れているケースがあります。しかし、金融機関は前例主義・横並び主義でもあるので、他事例を示して交渉し、成功事例はどんどん外部に発信すべきです。

NPO法人地域資源ネットワークあいちの紹介

平成 17 年設立。理事長 田中亨（とおる）氏、副理事長 井内尚樹（なおき）氏。

地域の資源（人、文化、物理的資源にエネルギー資源を含む）を利用して地域の中小企業を活性化させる事業型 NPO。従来の産学共同から金融を加えた産学金共同による事業展開を目指しています。具体的には中小事業者などへの融資、太陽光発電事業、高効率木質ボイラー製造販売などに取り組んでいます。

団体正会員（入会金 10,000 円以上、年会費 30,000 円）個人正会員（入会金 30,000 円、年会費 12,000 円）、賛助会員（入会金なし、年会費 3,000 円）で構成されています。

事務局 山本